



TERATOTERA

DOCUMENT

2015



東京都

ARTS
COUNCIL
TOKYO



TERATOTERA DOCUMENT 2015 Contents

TERATOTERAについて 04 ABOUT TERATOTERA	作家プロフィール 38 ARTIST PROFILE
はじめに 05 PREFACE	アンケート集計 40 SUMMARY OF QUESTIONNAIRE
年間のイベントスケジュール 06 SCHEDULE	TERA English 42 TERA ENGLISH
TERATOTERASOUND FES. - 音の陽炎 - 08 TERATOTERA SOUND FES. - Sound Haze -	TERAKKO の活動 44 TERAKKO'S ACTIVITY
西荻レヂデンス Ⅱ : 幽霊トリオをうつ : Ⅱ 14 NISHIOGI RESIDENCE Ⅱ : Shoot the Ghost Trio : Ⅱ	おわりに 46 AFTERWORD
アートプロジェクトで 789 18 ART PROJECT de 789	
TERATOTERA 祭り 2015 -Sprout- 20 TERATOTERA FESTIVAL 2015 -Sprout-	
ブレイベント PRE-EVENT 21	
アート ART 24	
ライブ LIVE 34	
演劇 PERFORMANCE 36	

About

TERATOTERA

TERATOTERA (テラトテラ) は、東京都とアーツカウンシル東京と、吉祥寺に拠点を置いて現在進行形の芸術をフィーチャーしている一般社団法人 Ongoing が協働して、平成 21 年度より JR 中央線高円寺駅～吉祥寺駅～国分寺駅区間をメインとした東京・杉並及び武蔵野、多摩地域を舞台に展開する、地域密着型アートプロジェクトおよびその発信機関の総称です。TERATOTERA では、音楽ライブ、展覧会などのアートプログラムを、年間を通して実施しています。また、アートの現場で活躍する人材の育成に重きを置き、アートプログラムの運営をボランティアスタッフが主導すると共に、アート関係者に向けた様々なレクチャーを開講しています。

高円寺
Koenji

阿佐ヶ谷
Asagaya

荻窪
Ogikubo

西荻窪
Nishiogikubo

吉祥寺
Kichijoji

三鷹
Mitaka

武蔵境
Musashisakai

東小金井
Higashikoganei

武蔵小金井
Musashikoganei

国分寺
Kokubunji

Preface

はじめに

Preface

JR 中央線の高円寺・吉祥寺・国分寺という“3つの寺”を繋ぐ周辺地域で展開しているアートプロジェクト TERATOTERA。6年目を迎えた本プロジェクトは、平成 27 年度も地域との連携を図り、トーク、レクチャー、音楽ライブ、展覧会など、場所や内容を変えながらたくさんの企画を実施してきました。

本年度は、東小金井高架下でのトークから始まり、夏は小金井公園にある江戸東京たてもの園での音楽ライブ、秋は西荻窪を舞台とした滞在型の制作発表、そして 11 月の三鷹駅周辺地域を舞台にした大型展覧会を開催。またこうしたイベントに併行し、アーティストやキュレーターに向けた英語のレクチャーなども実施してきました。

すべての企画は TERAKKO (テラッコ) と呼ばれるボランティアスタッフが中心的な役割を担っており、今年も TERATOTERA の様々な現場で彼らの目覚ましい活躍を見ることができました。長きにわたって活動する TERAKKO と新しく加わった TERAKKO が、話し合いを重ね、協働しながら企画を築き上げていく過程は、有機的なダイナミクスに溢れ、たくさんの驚きや発見をもたらしてくれるものでした。

本ドキュメントのテキストのほとんどは、TERAKKO たちの言葉によって構成されており、彼らがどのような思いで本活動に関わってきたのかが伝わってくる内容となっています。TERAKKO の案内のもと、現在進行形で成長を続けるアートプロジェクト = TERATOTERA の 27 年度の軌跡をじっくりとご覧いただければと思います。

ディレクター
小川希

TERATOTERA is a community-based art project mainly around three stations named after the local temples (Tera or Ji); Koenji, Kichijoji and Kokubunji on the JR Chuo Line. Celebrating its 6th anniversary, TERATOTERA 2015 offered a wide range of events from talk, lecture, music live to art exhibition in various contents and venues, in cooperation with the community.

This year's TERATOTERA started from talk events held at space under the railway of Higashikoganei. Then it continued to other events such as a music live concert at Edo-Tokyo Open-air Architectural Museum in Koganei Park in summer, Nishiogikubo residence program in fall and a large-scale city exhibition in the area around Mitaka station in November. In parallel with these events, TERATOTERA has been providing English lectures for artists and curators. From the planning to management of the events, volunteer members called TERAKKO play central roles. This year as well as previous years, TERAKKO showed remarkable performance and contribution to the project. Frequently veteran members and fresh members get together and discuss ideas and problems to make events successful. The process seemed organic and dynamic, and was certainly full of surprises and new findings.

The great part of this document consists of words by TERAKKO members. It gives the ideas of how they have engaged themselves in the project. Under the guide of TERAKKO, I hope you can follow the tracks of TERATOTERA 2015, an art project which always keeps ongoing.

DIRECTOR
Nozomu Ogawa

Schedule

6.14

東小金井 Higashikoganei

アートプロジェクトで 78⁹ - Vol.6
プロジェクトは誰に向けて発信するのか

[日時] 2015 年 6 月 14 日 (日) 19:00 ~ 21:00
[会場] ヒガコプレイス
[ゲスト] 服部浩之 (キュレーター)

7.5

西荻窪 Nishiogikubo

アートプロジェクトで 78⁹ - Vol.7
美術館とビエンナーレ／トリエンナーレの関係

[日時] 2015 年 7 月 5 日 (日) 14:00 ~ 16:00
[会場] 旅の本屋のまど
[ゲスト] 飯田志保子 (キュレーター)

7.22-

千代田区 Chiyoda-ku

TERA English

[開催日時] 初級クラス／ 2015 年 7 月 22 日 ~ 2016 年 2 月 24 日 隔週水曜日 全 15 回 19:30 ~ 21:30
中級クラス／ 2015 年 7 月 29 日 ~ 2016 年 3 月 2 日 隔週水曜日 全 15 回 19:30 ~ 21:30
[開催場所] アーツカウンシル東京 ROOM302
[講師] 弘川有希絵、内藤貴美子

8.1-8.2

武蔵小金井 Musashikoganei

TERATOTERA SOUND FES. - 音の陽炎 -

[開催日時] 2015 年 8 月 1 日 (土)、2 日 (日) 17:30 ~ 19:30
[開催場所] 江戸東京たてもの園 吉野家
[参加アーティスト] 8 月 1 日 (土) 齋藤徹、八木美知依
8 月 2 日 (日) 東京中低域より 7 名のバリトンサックス、Torus Vil.

9.20

三鷹 Mitaka

TERATOTERA 祭り 2015 -Sprout- プレイベント

[開催日時] 2015 年 9 月 20 日 (日) 11:00 ~ 17:00
[開催場所] 三井住友銀行 三鷹支店 駐車場
[参加アーティスト] うらあやか、田中義樹、パンク侍 (パンケキ侍)、野口竜平

TERATOTERA DOCUMENT

10.3

武蔵小金井 Musashikoganei

アートプロジェクトで 78⁹ - Vol.8

プロジェクトをどう残す!? - 作品・アーカイブ・言葉・価値 -
Nadegata Instant Party の試み

[日時] 2015 年 10 月 3 日 (土) 13:00-15:00

[会場] Roof

[ゲスト] Nadegata Instant Party (アーティストユニット)

10.21-10.25

西荻窪 Nishiogikubo

西荻レヂデンス || : 幽霊トリオをうつ : ||

[開催日時] 2015 年 10 月 21 日 (水) ~ 25 日 (日) 14:00 ~ 21:00

[開催場所] ビリヤード山崎 2 階、西荻レヂデンス (滞在先・展示会場)

[参加アーティスト] オル太

[滞在リサーチ期間] 8 月 1 日 (土) ~ 8 月 31 日 (月)、10 月 1 日 (木) ~ 25 日 (日)

11.8

荻窪 Ogikubo

アートプロジェクトで 78⁹ - Vol.9

遠藤水城さんの悩み: キュレーションにおけるコンセプトとはなにか。

千葉正也さんの悩み: 作品が完成しなかったらと想像すると

超怖いのでいつも体力的に限界までやってしまう事

[日時] 2015 年 11 月 8 日 (日) 18:00-20:00

[会場] 旅館西郊

[ゲスト] 遠藤水城 (インディペンデント・キュレーター)、千葉正也 (画家)

11.21-11.23

三鷹 Mitaka

TERATOTERA 祭り 2015 -Sprout-

[開催日時] 2015 年 11 月 21 日 (土) ~ 23 日 (月・祝) 11:00 ~ 19:00

[開催場所] 三鷹駅周辺

[参加アーティスト] アート展示: うらあやか、江藤佑一、小鷹拓郎、阪中隆文、瀬川祐美子、

玉山拓郎、野口竜平、山本篤、和田昌宏

ライブ: 井手健介、藤田陽介、マヒトゥ・ザ・ピーポー

演劇: 贅沢貧乏

12.12

阿佐ヶ谷 Asagaya

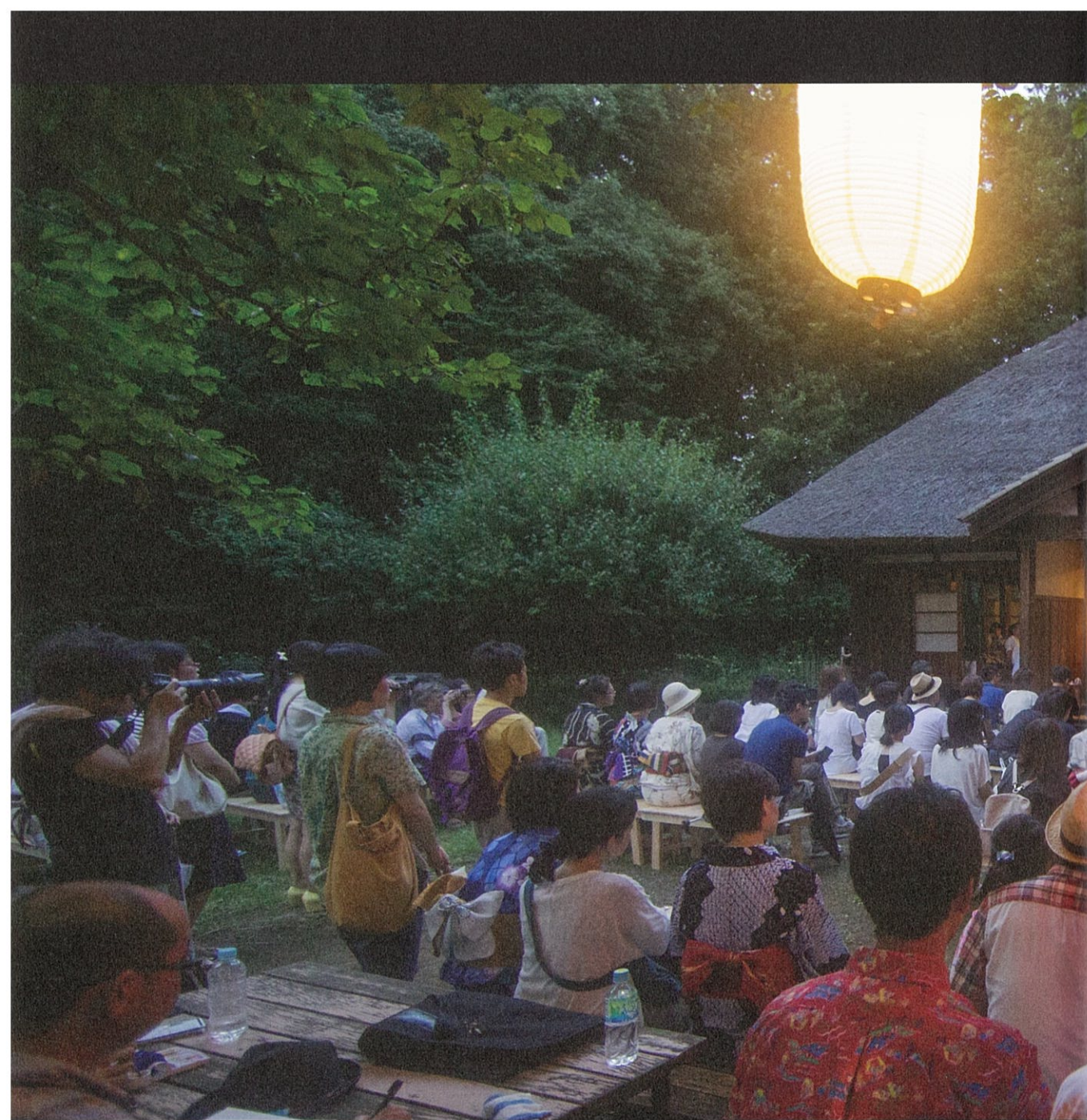
アートプロジェクトで 78⁹ - Vol.10

悩みは企画の悪友なのか?

[日時] 2015 年 12 月 12 日 (土) 13:00-15:00

[会場] 杉並リボン館

[ゲスト] 森司 (東京アートポイント計画 ディレクター)



TERATOTERA SOUND FES. - 音の陽炎 -

2015 年 8 月 1 日 (土)、2 日 (日) 17:30 ~ 19:30

江戸東京たてももの園 吉野家 (東京都小金井市桜町 3-7-1
都立小金井公園内)

参加アーティスト: 齋藤徹、八木美知依 (8 月 1 日)

東京中低域より 7 名のバリトンサクソ、

Torus Vil. (8 月 2 日)

※ 本イベントは「たてももの園下町夕涼み」に合わせて開催されました。

Title : TERATOTERA SOUND FES. -Sound Haze-
Date : 2015.8.1 (Sat.) - 2015.8.2 (Sun.) 17:30-19:30
Venue : Edo-Tokyo Open-Air Architectural Museum
(3-7-1, Toritsu Koganei Koen, Koganeishi, Tokyo)
Artist : 2015.8.1 (Sat.) Tetsu Saitoh, Michiyo Yagi
8.2 (Sun.) Tokyo-Chutei-Iki, Torus Vil.



2日限りの音楽の祭典を、小金井公園の敷地内にある「江戸東京たてももの園」で開催しました。「吉野家」という江戸時代後期に建てられた古民家を舞台に、4組の出演者が演奏を繰り広げました。熱心な音楽ファンから小さな子供を連れた家族まで、幅広い観衆に楽しんでもいただきました。

(文:加藤裕士)

Two-day sound festival was held at Edo-Tokyo Open-air Architectural Museum in Koganei Park. Great performances were made by four musicians at Yoshino Family Farmhouse built in the late Edo period. A wide range of audience, from enthusiastic music lovers to families with little kids enjoyed the festival.

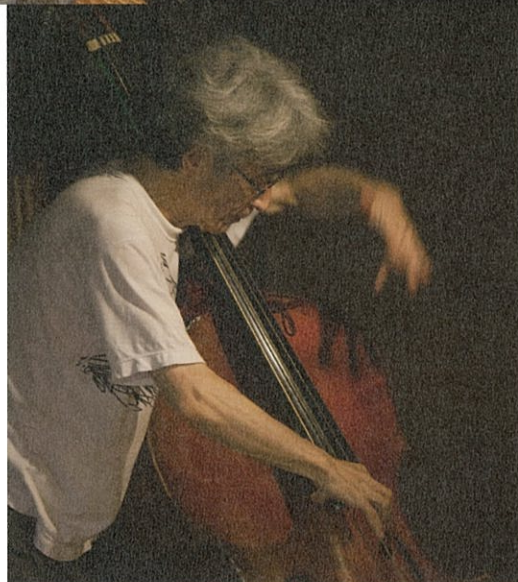


和風空間に新しい音

齋藤徹 Tetsu Saitoh

コントラバス演奏を極め、音楽にとどまらず美術やダンス、演劇など多様なジャンルと深く関わり、独自の世界観を描く齋藤徹さん。SOUND FES.では古民家の室内で既成の楽曲から即興まで幅広い演奏を展開し、和風空間に全く新しいサウンドを響き渡らせました。コントラバスの奏法を解説しながら進行するパフォーマンスに、観衆は次にどんな音が鳴らされるのかと引き込まれるように聴いていました。

(文:高島佐知子)





蟬しぐれと箏の音と

八木美知依 Michiyo Yagi

蟬しぐれと混ざり合いながら一音一音丁寧に鳴らされる箏（こと）。そんな導入部から始まったステージは、即興や自作曲を織り交ぜながら緩やかに進行了。八木美知依さんは、邦楽のみならず実験的な音楽やポップスまで幅広い活動をみせる箏奏者です。そんな彼女の演奏に、聴衆は静かに耳を澄ましていました。演奏がスタートしたのは日没前でしたが、徐々に会場全体が薄闇につつまれ、神秘的な音空間を作りだしていました。（文：加藤裕士）





紅の鳥、夕闇に舞う

Torus Vil.

「表現 (Hyogen)」の佐藤公哉さんを中心とした音楽プロジェクト「Torus Vil.」。世界各地の伝統音楽やダンスなど、他の領域とも繋がりを持ちながら、現代に必要とされる「場」作りを目指しています。そんな彼らの華麗なるパフォーマンスが古民家で繰り広げられました。室内での演奏に加えて、屋外に飛び出してダンスを展開。その様子はさながら夏の夕闇に舞う一羽の深紅の鳥のようでした。優美で神秘的なサウンドと相まって、非常に質の高い内容でした。

(文: 佐久間考彰)





強く繊細なサックス

東京中低域より7名のバリトンサックス

Tokyo-Chutei-Iki

国内外のバリトンサックス・シーンをリードするバンド「東京中低域」による、一夜だけの特別編成でのステージ。バリトンサックスだけで作りあげるその音楽は、力強さで押し切るだけではなく、緻密に計算した楽曲によって音の良さをさらに引き立てていました。パフォーミングエリアは主に室内でしたが、演奏中にメンバーが庭におりてくる場面も多く、会場全体を大いに盛り上げていました。最後の曲では全員の音が渾然一体となり、感動的なクライマックスを迎えました。

(文:加藤裕士)





西荻レヂデンス Ⅱ：幽霊トリオをうつ：Ⅱ

2015年10月21日(水)～25日(日) 14:00～21:00

ビリヤード山崎(杉並区西荻北3-19-6)、

西荻レヂデンス(杉並区西荻北3-18-10 4F)

参加アーティスト：オル太

滞在リサーチ期間：8月1日(土)～8月31日(月)、

10月1日(木)～25日(日)

Title : NISHIOGI RESIDENCE Ⅱ : Shoot the Ghost Trio: Ⅱ

Date : 2015.10.21 (Wed.) - 2015.10.25 (Sun.)

Venue : Billiard YAMAZAKI, NISHIOGI RESIDENCE

Artist : OLTA

Research period: 2015.8.1 (Sat.) - 8.31 (Mon.), 10.1 (Thu.) - 10.25 (Sun.)

「西荻レヂデンス」は、アーティストが西荻窪駅周辺に約2カ月滞在し、制作・発表を行うプロジェクトです。今回は、パフォーマンス、彫刻、映像などを駆使し、ジャンルを超えた作品を国内外で発表する集団「オル太」が参加しました。

オル太が作品の起点としたのは、不条理演劇の作家サミュエル・ベケットが1975年にテレビ放映用に書いた戯曲「幽霊トリオ」です。この戯曲には、白い部屋の中で、窓に近づいたり鏡を覗いたりといった行為をぎこちなく繰り返す男が描かれています。その姿は、テレビという箱の中

を彷徨っているようで、深い孤独と、他者と繋がりたいという人間の根本的な欲望を感じさせます。

オル太は、日本国内では鑑賞困難なこの映像作品を、戯曲を読み取って再現しました。挿入歌や舞台の配置など多様な観点から解体し、映像、音声などの要素をビリヤード店とアパートの室内に分けて展示しました。「Ⅱ：幽霊トリオをうつ：Ⅱ」は、2つの会場を行き来する鑑賞者の記憶の中でだけ、1つの作品として浮かび上がりました。

(文：高村瑞世)

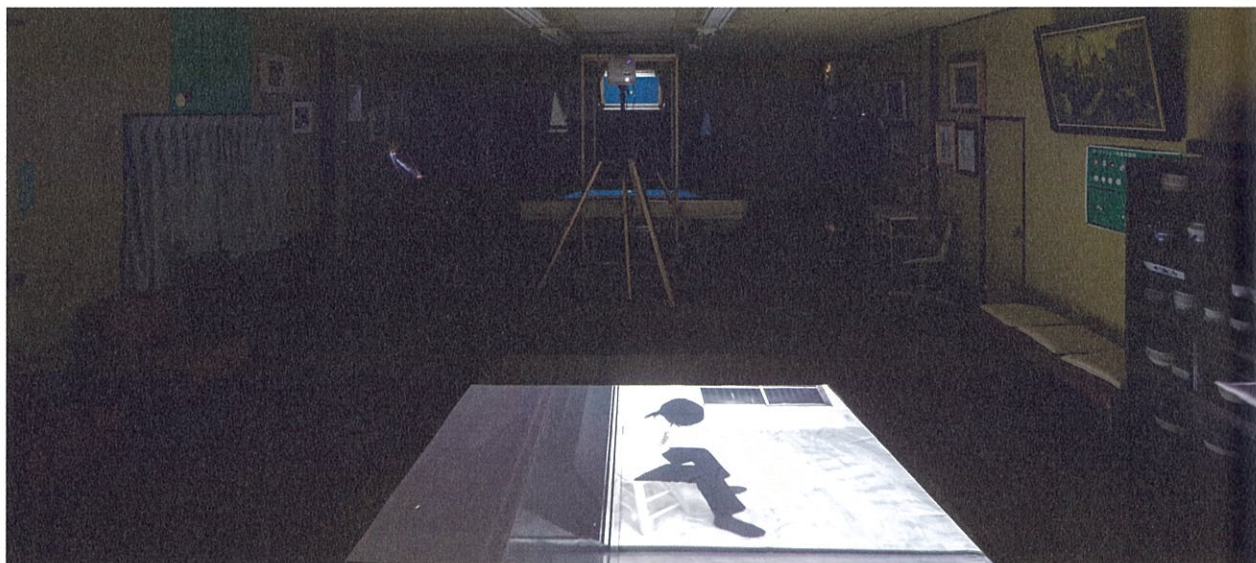


"NISHIOGI RESIDENCE" is a two-month Artist In Residence project for research, production and exhibition at the end. This year's resident was an internationally active artist collective OLTA. Their interdisciplinary work consists of performance, sculpture and video.

For the final exhibition, OLTA set a starting point in "Ghost Trio," a television play written in 1975 by Samuel Beckett, who is well known for Theater of the Absurd. In "Ghost Trio," a man goes to the window, goes to the door from the window and looks into the mirror in a clumsy manner, over and over. Repetitions of such movements in a white simple room conjures

image of wandering around inside a TV box, and gives the sense of deep loneliness and human's innate desire to connect with others.

Since the original version of the television play is inaccessible in Japan, OLTA deciphered and recreated the play from the script. They disassembled the structure by some elements such as inserted music and stage layout, and showed the video and sounds in a billiard house and an apartment separately. "|| : Shoot the Ghost Trio : ||" can be completed only in mind of the viewers who wander between the two exhibition venues.



展示について

オル太は、滞在先のアパートの部屋が「幽霊トリオ」の舞台図面と似ていたことから、今回の作品を着想しました。そこに、展示会場となる老舗のビリヤード場と滞在する西荻の街を織り込みつつ、「幽霊トリオ」の様々な要素を解体、再構築することを目指しました。

まず、舞台図面では窓やドア、家具に番号がついていることに注目。ビリヤード台に西荻の地図を投映してゲームをしました。球が止まった地点を実際に訪れて、周囲の窓やドアを撮影。その画像を投映したアパートの室内で、メンバーが「幽霊トリオ」の男を演じて、いわばオル太版「幽霊トリオ」を撮影しました。

展示会場は「ビリヤード山崎」の2階。床にオル太版「幽霊トリオ」を投映し、ビリヤード台には作品の資料ともいえる西荻の地図も投映しました。壁を隔てた小部屋では、戯曲を忠実に再現した、もう一つのオル太版「幽霊トリオ」

の映像がモニターで流されました。

滞在先のアパートの部屋も展示会場となりました。こちらには、西荻の地図を投映したビリヤード台でゲームをした映像を展示。ビリヤードの偶然性を通して「幽霊トリオ」に西荻の街がリンクされたことを示唆しました。

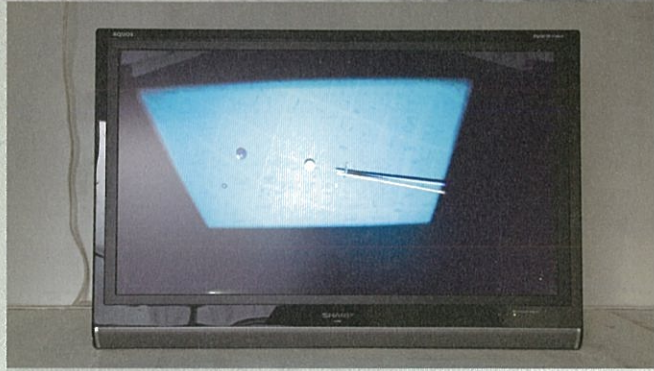
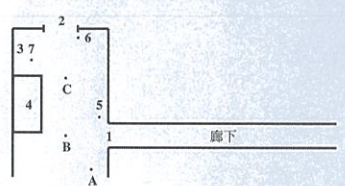
原作には三重奏による楽曲が挿入されます。オル太はこの楽曲も解体し、各パートを演奏する映像と音声を2会場に分けて展示しました。アパートではピアノの演奏が響き、モニターにチェロとバイオリンの演奏風景が無音で流れ、「ビリヤード山崎」ではその逆になります。

ベケットの戯曲からもう一つの物語を再構築することで、部屋という小さな空間と、個々人の選択の結果として形成される「街」、そして「もの」に宿る人々の記憶の関係性を探る。オル太の「Ⅱ：幽霊トリオをうつ：Ⅱ」はそんな試みから生まれた作品でした。

(文：高村瑞世)



- V 声(女の)
- F 人物(男)
- I 前・行為
- II 再・行為
- III 再・行為
- 部屋 五メートル×三メートル
- I ドア
- 2 窓
- 3 鏡
- 4 安ベッド
- 5 ドアのそばに坐つたときのF
- 6 窓のそばに立つたときのF
- 7 ベッドの横のF
- A 全身を捉えるカメラ位置
- B 中距離からのカメラ位置
- C 5と1・5と2・7と3の近距離シヤフトのカメラ位置





Vol.1



Vol.2



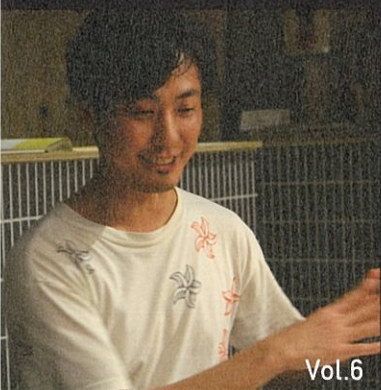
Vol.3



Vol.4



Vol.5



Vol.6



Vol.7



Vol.8

アートプロジェクトで789

『アートプロジェクトで789 (なやむ)』は、TERATOTERAのチーフディレクターである小川希がホストとなり、アートプロジェクトの各分野で活躍するゲストを迎えて開催した、対談形式の連続トークショーです。現在、全国各地で開催されているアートプロジェクトが抱える諸問題をシェアしながら、それら一つずつ紐解いていくことを目的に、2014年度～2015年度にかけて全10回開催されました。

"789 (Nayamu) — Problems, Doubts and Worries for Art Project" is a series of talk show hosted by Nozomu Ogawa, director of TERATOTERA. Between 2014 and 2015, TERATOTERA invited 10 guest speakers who are most active directors, curators and artists to share various issues and solutions regarding contemporary art projects held all over Japan.



Vol.1 溢れるモノゴトシクミと情報の整理整頓と
処分についての悩み (テクニック)

藤浩志 (美術作家/十和田市現代美術館館長/十和田県入瀬芸術祭アーティストティック・ディレクター)

[日時] 2014年7月13日(日) 13:00 ~ 15:00

[会場] 吉祥寺 井の頭恩賜公園

Vol.2 アートの現場での労働環境と
キャリア形成についての悩み

相馬千秋 (アートプロデューサー)

[日時] 2014年8月31日(日) 13:00 ~ 15:00

[会場] 高円寺 AMPcafe

Vol.3 ああああ、洗練されたデザインと
胸を打つキャッチフレーズと
街に馴染んだ作品と……って、もうイヤ～!!

遠藤一郎 (未来美術家)

[日時] 2014年10月25日(土) 13:00 ~ 16:30
(15:30 ~ 16:30 789 特別ライブ『D.O.D.Z.I.NAYAMU』)

[会場] 三鷹 レストラン喫茶 上床

[ライブ出演] 遠藤一郎、會田洋平 (core of bells)、小川希

Vol.4 税金使ってアートをやる意味。

林曉甫 (プロデューサー/林曉甫事務所 代表)

[日時] 2015年1月18日(日) 13:00 ~ 15:00

[会場] 武蔵小金井 小金井アートスポット シャトー 2F

Vol.5 アーティストって誰に何を
求められているのでしょうか?

太田祐司、東野哲史、山本篤、和田昌宏、
出津京子、泉太郎 (全てアーティスト)

[日時] 2015年2月22日(日) 15:00 ~ 17:00

[会場] 三鷹 HYM ハモニカ横丁ミタカ

Vol.6 プロジェクトは誰に向けて発信するのか
服部浩之 (キュレーター)

[日時] 2015年6月14日(日) 19:00 ~ 21:00

[会場] 東小金井 ヒガコブレイス

Vol.7 美術館とビエンナーレ/トリエンナーレの関係
飯田志保子 (キュレーター)

[日時] 2015年7月5日(日) 14:00 ~ 16:00

[会場] 西荻窪 旅の本屋のまど

Vol.8 プロジェクトをどう残す!?

ー作品・アーカイブ・言葉・価値ー
Nadegata Instant Party の試み

Nadegata Instant Party (アーティストユニット)

[日時] 2015年10月3日(土) 13:00 ~ 15:00

[会場] 国分寺 Roof

Vol.9 遠藤水城さんの悩み:

キュレーションにおけるコンセプトとはなにか。

千葉正也さんの悩み:

作品が完成しなかったらと想像すると超怖いので
いつも体力的に限界までやってしまう事

遠藤水城 (インディペンデント・キュレーター)、千葉正也 (画家)

[日時] 2015年11月8日(日) 18:00 ~ 20:00

[会場] 荻窪 旅館西郊

Vol.10 悩みは企画の悪友なのか?

森司 (東京アートポイント計画 ディレクター)

[日時] 2015年12月12日(土) 13:00 ~ 15:00

[会場] 阿佐ヶ谷 杉並リボン館

Vol.1 Problem - Dealing with complicated system
and too much information

Vol.2 Problem - Working environment and career development
in art world

Vol.3 Problem - Noooooo, enough of sophisticated design,
impressive beautiful copies and intelligent
community-specific art work!

Vol.4 Doubt - Is art worth using tax?

Vol.5 Doubt - Who needs artists for what?

Vol.6 Doubt - Who is the project for?

Vol.7 Doubt - How is art museum related to art biennale / triennale?

Vol.8 Worry - What should we do after the project?
Nadegata Instant Party's attempts :
Work · Archive · Document · Value

Vol.9 Mizuki Endo's problem - What is concept in curation?
Masaya Chiba's problem - Cannot stop pushing himself to
the physical limit out of fear, "What if I couldn't finish the work?"

Vol.10 Are problems, doubts and worries your projects' worst enemies?

TERATOTERA 祭り2015 -Sprout-

日時：2015年9月20日(日)、
11月21日(土)～23日(月・祝) 11:00～19:00
会場：三鷹駅周辺

「TERATOTERA 祭り」は、街中でのアート展をはじめ、演劇公演や音楽ライブなどを盛り込んだ大規模展覧会です。2011年度から始まり5回目となった今回は、11月21～23日の3日間、三鷹駅周辺の空き店舗など7ヶ所を舞台に開催しました。また、9月20日にはこの祭典をより一層盛り上げるためのプレイベントを開催しました。(文：高村瑞世)

Title: TERATOTERA FESTIVAL 2015 -Sprout-
Date: 2015.11.21 (Sat.) - 2015.11.23 (Mon.) 11:00-19:00
Venue: Mitaka Station Surrounding area

TERATOTERA Festival is a large-scale city exhibition started in 2011, where people can see art exhibition, theater and music performance in vacant stores and other places in the area. This year, the 5th TERATOTERA Festival took place in seven venues around Mitaka Station on JR the Chuo Line from November 21 to 23. Also on September 20th, a small event was held as promotion for the festival.

Concept

「あの日」から4年半余りの月日が過ぎた。大地を揺らした大きな力は、我々がこの世界を生きる意味に対しても揺さぶりをかけ、それ以前の日常はもう決して戻ってはこない。社会的な変動もあれから加速度を増してしまったかのようだ。それに伴い、今を生きる全ての人々に対して早急な選択が迫られている。

「それで、あなたは、どちらなの？」

表現の世界であってもそれは例外ではない「ポリティカル」というさほど聞きなれない言葉がアーティストの口々を飛び交いはじめ、政治的な表現はこの小さな島国をあっという間に覆い尽くした。賛同する・しないに関わらず、そうした表現は今を生きるアーティストにとって大きな指標となったかのようだ。政治的か、政治的でないか。

ただここに来て、その二つの選択肢では括りきれない新しい動きが芽生えつつあるように感じる。そうした新しい表現は、過去を無視するわけでも、忘却するわけでもない。ただ、そこにしがみつくのではなく、自身の脚で自らが信じる方向にずっと立ち上がる。そこに迷いはない。

Sprout= 萌芽を意味するその言葉のように、「あの日」以前そしてそれ以降には決して見ることでできなかった未知なる表現が芽生え始めている。ともすると、あの大きな揺れがもたらした空白の時間、それこそが、彼らを生みだす土壌を作っていたのかもしれない。

TERATOTERA 祭り2015 - Sprout -

新しい予感に満ち溢れたその無数の芽たちは、私たちをどこへ導いてくれるのだろうか。

Four years and a half have passed since "that day." The gigantic power which moved our ground, also shook our meaning of life. The normal life before "that day" never ever comes back. Since the Great East Japan Earthquake on March 11 2011, Japanese society has been changing rapidly and there is a question often casted in front of people living in this country: "Are you a political person or a non-political person?" "Political person" indicates a person who would actively discuss politics or be involved with political activities including demonstrations and lectures. For many years, Japanese people, especially the young generation had been keeping a distance from politics. After the great disaster of 3.11, however, "political" became a more common word, and a lot of people, including artists started to think about a question: "Am I a political artist or non-political artist?" No matter which side artists placed themselves, the word seemed to be an index of artistic practice for post 3.11 world--- political or non-political.

However, recently there is a feeling that something new is coming out among young artists. Some new expression of art, which does not fall on to either political or non-political category. The artists started to ease the tightened arms full of tragic memories. They do not forget or neglect the past. They are now trying to stand on their foot facing the direction of their beliefs, without doubt.

Something, people had never seen before is beginning to sprout.

Perhaps, during the white moments of shaking, the soil was being cultivated for the new life.

TERATOTERA Festival 2015 - Sprout-

I am thrilled to see where the countless sprouts will take us, with full of bright hope.

ディレクター 小川 希

DIRECTOR Nozomu Ogawa



Pre-Event

TERATOTERA 祭り 2015 -Sprout- プレイベント

2015 年 9 月 20 日 (日) 11:00 ~ 17:00

三井住友銀行 三鷹支店 駐車場

(東京都武蔵野市中町 1-1-6)

参加アーティスト：うらあやか、田中義樹、
パンク侍 (パンケキ侍)、野口竜平

TERATOTERA FESTIVAL 2015 -Sprout-

Title : TERATOTERA FESTIVAL 2015 Pre-Event

Date : 2015.9.20 (Sun.) 11:00-17:00

Venue: SMBC Parking lot (Mitaka)

Artist: URAAYAKA, Yoshiki Tanaka, Punk-Samurai,
Tappei Noguchi

秋晴れのさわやかな陽気の下、11月下旬に三鷹で行われる TERATOTERA 祭りのプレイベントを行いました。会場は、三鷹駅北口の三井住友銀行の駐車場。この日は、三鷹北口商店会のお祭りで、近くを子供神輿が通るなど、にぎやかな雰囲気の中、会場では、過去の TERATOTERA 祭りの映像や、記録冊子を展示するブースを設け、チラシを配布しました。また、11月の祭りに参加する作家を含む4組の若手アーティストによる、来場者参加型のアート作品が会場いっぱい並び、ワークショップや、パフォーマンスが繰り広げられました。(文：千葉佐奈子)

Under the clear September sky, at a parking lot of Sumitomo Mitsui Bank in the north side of Mitaka, we held a small exhibition to notify local residents of TERATOTERA Festival in November. Since there was a local festival on the same day, children passed by carrying a portable *mikoshi* shrine. In such a friendly and relaxing atmosphere, we set up a booth to display videos and archive documents of previous TERATOTERA Festival, and distributed flyers of the event. Furthermore, four young artists made participatory projects, workshops and performances in the same parking lot.



田中義樹 《一富士、三鷹、パンまつり》

Ichi Fuji, Mitaka, Bread Festival / Yoshiaki Tanaka
(The title comes from good luck dream of New Year, Mt. Fuji and hawk)

会場に大きく展開された富士山、樹海、富士五湖…。田中義樹さんによるアート作品「一富士、三鷹、パンまつり」はひととき存在感を放っていました。通りがかったちびっ子たちも富士山と樹海に散りばめられたアートに興味津々。富士山の四方に置かれたテーブルにはパンが置いてあります。それを食べる際は誰とも口をきいてはいけないというルールでした。晴れた休日の昼下がり、富士山を眺めながら強制的に独りでパンを食べる行為に、老若男女問わず顔はどんどん無表情になり、そこはかとない孤立感が漂います。「みんなで楽しむ」ハイキングやお祭りといったものを逆手にとらえたテーマ作品でした。(文：飯田光尚)



うらあやか 《「野良イネを探して。」》

Seeking for Nora Ine / URAAYAKA
(Stray rice plant sounds similar to inu, dog.)

「野良」(雑草や野良犬など、人の手で育てられていない、管理されていないもの)を探して、アーティストがふるまうご飯をいただきながら「野良」について語るという体験型のアート。子供から大人まで様々な年代の方に参加していただきました。「野良」を探すという体験を通し、普段目を向けないようなところに注目することで新しい発見があり、また、何が「野良」に当てはまるかを参加者同士で話し合うことで、自分にはない視点にも触れることができるなど、様々な収穫のある体験ができたようです。(文：志賀祥子)



野口竜平 《タイヤ祭り》

Tire Festival / Tappei Noguchi

野口竜平さんはパフォーマンス作品《タイヤ祭り》で、三鷹の街にトリックを仕掛けました。架空のタイヤ販売会社による広報イベント「タイヤ祭り」のチラシを作成し、秋祭り中の街で配布しました。チラシを受け取った人たちは「TERATOTERA 祭りプレイベント」の会場へ足を運びます。会場では、受付窓口に見立てたパラソルの下で、野口さんを中心としたパフォーマーたちが「タイヤ祭りやってます」と笑顔で対応。来場者のひとりが、紐でくられたタイヤを引っ張って会場内を練り歩くと、他の人たちが次々と参加。作家にとっても予想外の展開になりました。（文：遠山尚江）

パンク侍 (パンケキ侍)

Punk-Samurai

野口竜平さん率いるアーティスト集団パンク侍（パンケキ侍）は、荒々しくも儚い侍の一生に見立てたパフォーマンスを見せてくれました。先端から紐の垂れ下がった竹を支えた野口さんが、周囲の観客に紐を渡していきます。放射状に伸びた紐が竹を不安定に立たせ、舞台ができました。討ち合う剣士。優雅に舞う踊り子。登場人物を銃で撃つ侍。地面を這う謎の生き物。撃たれた女がごちなく奏でるカノンが響く中、侍は一人、放射状に伸びていた紐をハサミで切っていきます。自分の頭を銃で撃ち抜いた侍が倒れ、舞台は幕を閉じました。セリフの一切ない演劇のようなパフォーマンスに、観客は目を見張るのでした。（文：後藤響子）



TERATOTERA 祭り 2015 -Sprout- 9名のアーティストによる、 インスタレーションや絵画、映像作品などの展示

2015 年 11 月 21 日 (土) ~ 23 日 (月・祝) 11:00 ~ 19:00
三鷹駅周辺

参加アーティスト：うらあやか、江藤佑一、小鷹拓郎、阪中
隆文、瀬川祐美子、玉山拓郎、野口竜平、山本篤、和田昌宏

Title: TERATOTERA FESTIVAL 2015 -Sprout- Art
Date: 2015.11.21 (Sat.) - 2015.11.23 (Mon.) 11:00-19:00
Venue: Mitaka Station surrounding area
Artist: URAAYAKA, Yuichi Eto, Takuro Kotaka, Takafumi Sakanaka,
Yumiko Segawa, Takuro Tamayama, Tappei Noguchi,
Atsushi Yamamoto, Masahiro Wada

三鷹駅周辺の空き店舗、ライブハウス、喫茶店など5カ所に、気鋭のアーティスト9名の作品が出現！ピンク色の室内を走り回る巨大なパンダカー、ピエロが案内する写真展、窓から煙が溢れ出し、焼き肉を焼く映像が室内で流れている古い家屋……。

静かに眠っていた空き店舗、そして営業中の店舗も、怪しげなインスタレーションに彩られ、いつもとは違う表情で熱を帯びた3日間となりました。(文：高村瑞世)

Vacant stores, a music bar and a classic coffee shop. Five venues around Mitaka Station became gallery space for nine up-and-coming artists! A huge panda car moving around a pink room, a photo exhibition guided by a crown, an old house where someone continuously grill meat on screen while the actual smoke comes out of the window. Vacant or occupied, the stores showed extraordinary faces with mysterious and fascinating installation art during the fevered three-days exhibition.



瀬川祐美子 《希望しかないかもしれない》

Only Thing Left Might Be Hope / Yumiko Segawa
三鷹駅北口交番横

三鷹駅北口の交番横に設置された巨大パネル。瀬川祐美子さんは、そこに大小異なるキャンバスを6枚取り付け、3日間ずっとライブペインティングを続けました。水性絵の具で描かれた図像は、抽象的で、鮮やかな色が塗り重ねられています。瀬川さんはこの夏の2ヵ月間、スウェーデンで滞在制作をしました。その中で「ああ、この世界には希望しかないのかもしれない」と感じたことで、周りの見え方が変わったそうです。その自身の変化を表現することで、鑑賞者にも希望を見出だすきっかけになれば、という思いが込められています。瀬川さんの描いた、自由な線や色彩から、鑑賞者にはどんな「希望」が見えたでしょうか？

(文：小玉明子)





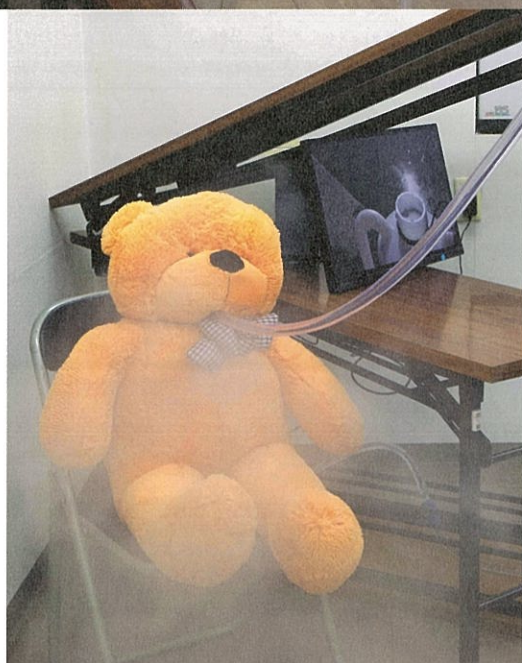
江藤佑一 《水泥棒》

Water Thieves / Yuichi Eto

三鷹第一アパート

江藤佑一さんは、三鷹第一アパートの古びた会議室をポップな空間に変貌させました。カラフルな動物のマスコットを数体配置し、その体を貫通させながらホースを張り巡らせたのです。そこに、池やトイレの水、ファミレスの飲み水、雨水など、様々な場所で作家が水を採取する行為を記録した映像が投影されます。採取された水はホースの中で混じりあって加湿器に取り込まれ、水蒸気となって空間に放出され、最後には鑑賞者の体内に入っていきます。そう、そこに居合わせた人も動物たちも目には見えない空気を介して間接キスをしていたのです。江藤さんが作り出した仕組みは、身体を通して他者や場所との関係性を柔らかに表すのでした。

(文:後藤響子)





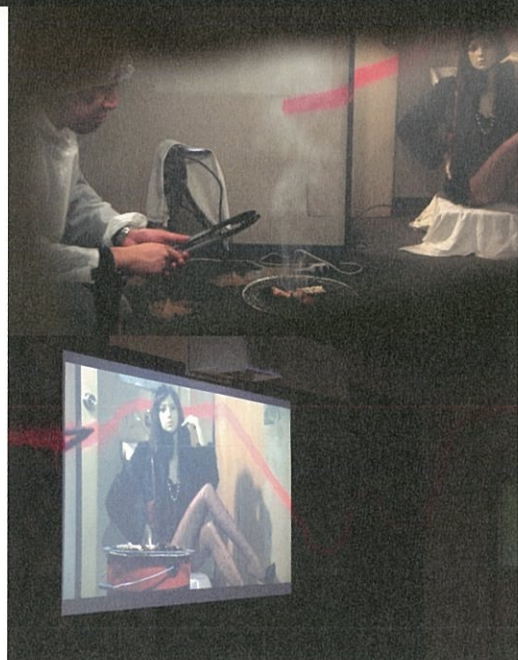
和田昌宏 《晩秋》

Late Autumn / Masahiro Wada

三鷹第一アパート

床や壁にこびりついた油の跡が元飲食店の記憶を想起させる、三鷹第一アパート。和田昌宏さんは、この室内に壁を設置して2つの空間を作りました。片方の部屋では七輪で肉を焼き続ける様子の細部だけを数台のビデオカメラで断片的に撮影し、もう一方の部屋ではその映像をリアルタイムで映しました。壁に作り付けられた換気扇からは肉を焼く匂いと煙が入ってきます。観客は、壁のすぐ向こうで行われている行為を、全体の状況はわからないまま、気配として感じ、想像を巡らせながら「見る」ことになりました。

(文：遠山尚江)





小鷹拓郎 《日本一ヘタな歌手・上床敬子の100次元パラレルワールド》

The Worst Singer in Japan, Keiko Uwatoko's 100 dimensional parallel world / Takuro Kotaka

レストラン喫茶 上床

会場は“特許・日本一!! ヘタな歌手”を名乗る「お敬ちゃん」が経営するレストラン喫茶 上床。お敬ちゃんこと上床敬子さんにただならぬエネルギーを感じた小鷹拓郎さんは、「お敬ちゃん100人計画」を企てます。会期前のある夜、30名ほどの老若男女が会場に集い、青い帽子・赤い上着・白いパンツというお敬ちゃんの定番スタイルに変身し、集合写真が撮影されました。会期中は、その写真と撮影時のドキュメンタリー映像を店内に展示。そして、展示を見に訪れた人々にもお敬ちゃんの格好になるよう薦め、ポラロイド写真を撮影しプレゼントします。気づけば誰もがその独特な世界に没入してしまう異空間で、次々とお敬ちゃんが増殖。小鷹さんによる計画は遂行されたといえるでしょう。（文：吉田絵美）





うらあやか 《 my body myth 》

URAAAYAKA

おんがくのじかん

会場は三鷹駅南口にあるライブハウス「おんがくのじかん」。天井に薄布が張られ、エスニック調のBGMが流れる店内は、独特の雰囲気を漂わせていました。この空間で、うらあやかさんは自身の体のホクロを線であいだドローイングを展示。またその場で実際に観客の体にペイントを施しました。それを星座に見立てて、観客と対話しながら名前をつけていきました。観客は、その過程でこれまでの経験や周囲の環境に改めて意識を向けるとともに、各々の身体に眠る「神話（myth）」の存在に思いを馳せる機会となりました。

（文：志賀祥子）





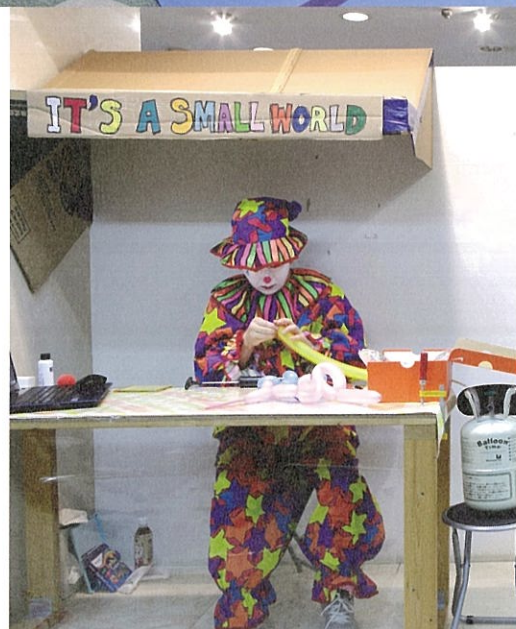
山本篤 《It's a small world》

Atsushi Yamamoto

三鷹中央ビル1階 みたかスペースあい

三鷹駅南口から徒歩5分の貸しスペース。隣は電気屋、正面は洋服屋、地下は食品スーパー。そんな平凡な商店街の日常の中で、ピエロに扮した山本篤さんが来客を迎えます。ピエロは、特に愛想が良いわけでもなく、無愛想でもない。来客は、ピエロが引っ張る台車に座り、渡された風船を手にとり小さな展示スペースをゆっくりと一周します。展示内容は、「三鷹」と「世界の風景」の写真と暗闇で波打つ水面の映像。会場には「It's a small world」の音楽が鳴り響いています。老若男女の来客は、戸惑いながら、小さな三鷹の街から世界のあり方を様々な視点で捉えることになりました。

(文：山本晃由美)





阪中隆文 《 Giant panda car 》

Takafumi Sakanaka

三鷹中央ビル 2 階 自転車店跡

阪中隆文さんの作品は巨大なパンダカー。鮮やかなピンクの壁面に囲まれた空間に置かれると、それだけで祝祭の雰囲気漂います。しかも、コインを入れると電子音を鳴らしながら軽快に動き、実際に会期中は多くの観客を乗せて会場を回遊し続けました。その動力は実は作家自身。時間とともに消耗しますが、コインはパンダの体をすり抜けコンクリートの床に虚しく散らばっていきます。ハレとかわいさの象徴であるパンダカーは、過酷な労働とその対価との関係を端的に示すものでした。最終日には、周遊ルートを外れ、隣で展示していた野口竜平さんらのパフォーマンスに頭から突っ込んでいきました。「革命」の象徴だったのでしょうか。

(文：千葉佐奈子)





玉山拓郎 《 We are different to cross the river, and we cross different rivers. 》

Takuro Tamayama

三鷹中央ビル 2 階 自転車店跡

壁がピンク色に塗られたままの店舗跡の入口を一步入ると、優しい電球の光が鑑賞者を迎えます。広い空間はそれぞれカラフルなボードで仕切られ、絶妙に計算された色彩と直線的なラインの組み合わせに目を奪われます。ふと見ると、フリスビーのランプにかつら、バターナイフがあちこちに散らばっています。その光景は海の彼方から漂着した記憶を呼び起こすかのようで、柔らかい空気を纏いながら、人々を立ち止まらせます。いつのまにか色と光と音が調和した空間で、言葉のない詩がひびいているかのような錯覚を覚えました。

(文：柳本紀子)





野口竜平 《壁! ホワイト》

Wall! White / Tappei Noguchi

三鷹中央ビル 2 階 自転車店跡

薄暗い部屋の中で、作家の指示書通りに赤い紙飛行機を飛ばすと、突如白い壁への「攻撃」が始まりました。劈く破壊音。白い破片が飛び散り床を白く染めていく。ひりりとした緊張感。破壊という美しさを見せるために壁を壊しては作り、また壊すという行為を繰り返します。作家は時折、壁の向こう側から這い出てきて、おばあちゃんと旅人と紙飛行機について語り、踊りました。最終日に野口さんが参加する「パンク侍 (パンケキ侍)」が、壁の両側で異なるパフォーマンスを展開。やがて壁を壊して観客を展示空間の奥深くへと誘いました。同時多発的なパフォーマンスに、観客は目を奪われていました。(文: 町田紗記)





Live

TERATOTERA FESTIVAL 2015 -Sprout-

TERATOTERA 祭り 2015 -Sprout- 柔道場を舞台とした音楽ライブ

2015 年 11 月 21 日 (土) 13:00 ~ 15:30

東海大学望星学塾松前柔道場

参加アーティスト：井手健介、藤田陽介、
マヒトゥ・ザ・ピーポー

Title: TERATOTERA FESTIVAL 2015 -Sprout- LIVE

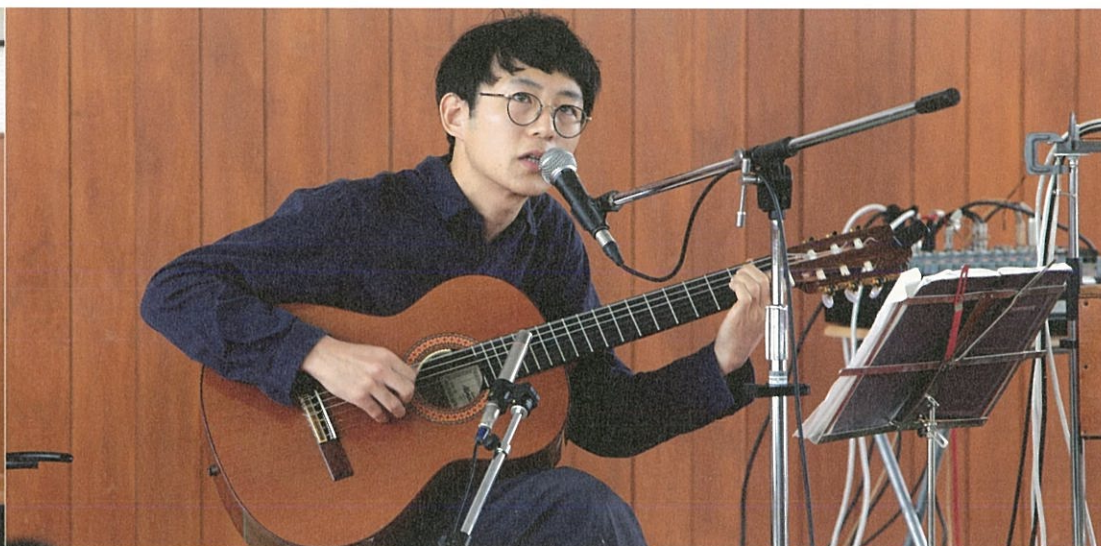
Date: 2015.11.21 (Sat.) 13:00-15:30

Venue: TOKAI UNIVERSITY BOSEI GAKUJUKU THE
MATSUMAE JUDO-JUKU

Artist: Kensuke Ide, Yosuke Fujita, MahiToThePeople

TERATOTERA 祭りのライブは初日の午後、東海大学望星学塾柔道場にて開催されました。窓から暖かい日差しが差し込む柔道場で、歌と音の関係について新しい可能性を提示する音楽家 3 人がそれぞれソロで演奏を行いました。
(文：加藤裕士)

In the afternoon of the first day, at a judo hall Bosei Gakujuku, Tokai University. With warm sunlight coming from the window, solo music performances were made by three musicians who explore new possibility of relationship between music and sounds.



写真上: 井手健介 Kensuke Ide

写真左: マヒトゥ・ザ・ピーポー MahiToThePeople

写真下: 藤田陽介 Yosuke Fujita



最初に演奏したのは井手健介さんでした。アコースティックギターによるゆっくりとしたイントロから始まり、聴衆を自らの世界に引き込むように歌を紡いでいきました。優しい曲調にも関わらず、歌詞や曲の展開などでどこかずれた要素を含ませていき、毒のある世界観を感じさせます。歌の持つ可能性を拡大させるようなパフォーマンスでした。

次のパフォーマンスはマヒトゥ・ザ・ピーポーさんです。BGM が消え、暗くなった会場にクラシックギターを抱えて歌いながら登場した彼は、客席の中央にとどまって生声で1曲歌いました。意表をついた幕開けの後、ステージで演奏された歌の数々はドラマティックで現実離れた世界を作りあげていきました。会場が柔道場であることを忘れさせるような演奏でした。

最後の演奏は藤田陽介さん。自作のパイプオルガンや、内部にマイクが仕込んである水槽という特殊な機材を使用した演奏に加え、ホーメイをはじめとした特殊唱法をも駆使する彼のパフォーマンスは、ひたすら音に入り込んでいく感覚を聴衆に与えていきました。終盤には正座して短い曲を演奏し、畳に手を打ち付ける音で全てのパフォーマンスが終了しました。音と声、さらに場との関係性を考えさせるような濃密な演奏でした。(文:加藤裕士)





Performance

TERATOTERA FESTIVAL 2015 -Sprout-

TERATOTERA 祭り 2015 -Sprout- 贅沢貧乏「みんなよるがこわい」

2015 年 11 月 21 日(土)、22 日(日)、23 日(月・祝)

17:00/19:30/22:00 (各回 50 分)

三鷹北口共同ビル 2 階

脚本・演出：山田由梨

出演：青山祥子、大竹このみ、田島ゆみか、山田由梨

《 Everyone is Afraid of the Night 》 ZEITAKU BINBOU

Date: 2015.11.21 (Sat.), 11.22 (Sun.), 11.23 (Mon.) 17:00/19:30/22:00

Length: 50 min.

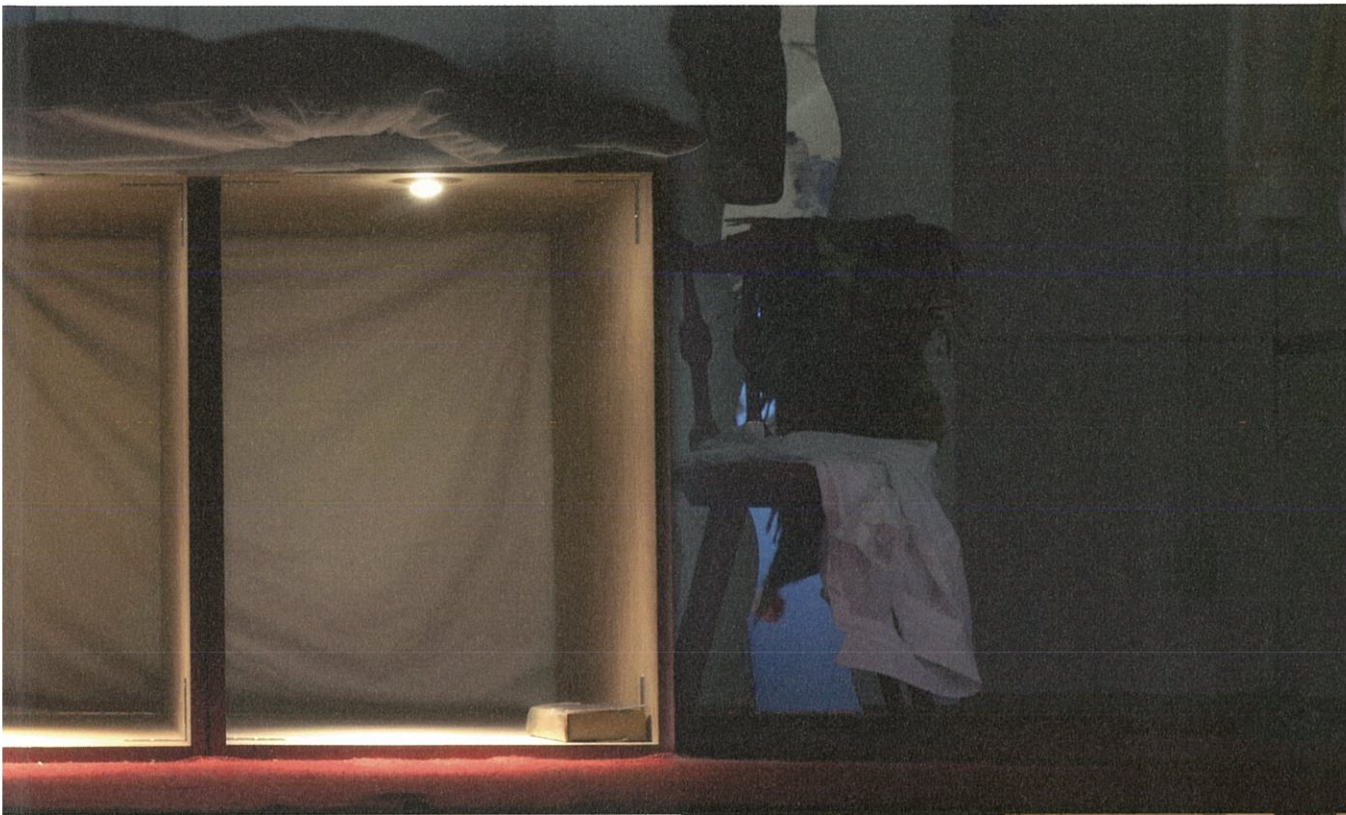
Venue: Mitaka Kitaguchi Kyodo Building 2F

Playwrite/Director: Yuri Yamada

Casts: Sachiko Aoyama, Konomi Otake, Yumika Tajima, Yuri Yamada

誰もが経験する、ずっと考え事をして眠れないような夜。そんな「よる」をテーマとした、「贅沢貧乏」による演劇作品が TERATOTERA 祭りの期間中、毎日夕刻から夜にかけて 3 回上演されました。会場は三鷹駅から徒歩 5 分ほど、商店街に面したビルの一室。虚構としての演劇が、思いがけず日常生活と隣り合っていることを示唆するかのようでした。

A sleepless night that everyone may experience at once. Under a theme of such night, ZEITAKU BINBOU had 3 performances everyday in evening to midnight during the festival. The venue is one of the room of the building in a shopping street, five minute-walk from Mitaka Station. It suggested that fictional world might be close to our real world unexpectedly.



贅沢貧乏を主宰する山田由梨さんと、出演者3人は、11月初めから約3週間、会場であるビルに通って稽古を重ねました。贅沢貧乏はこれまでも、1年間、空き家を借りて住みながら稽古・上演する「家プロジェクト」を続けてきましたが、今回も滞在することで見えてきたものがあったそうです。

やけに消防車の音がする。隣のジャズバーの演奏会。上階の演劇教室では何やら叫ぶ声……。無音で黒壁に囲まれた劇場とは違い、いつも誰かの気配が感じられる空間でした。そして、公演当日。私たち観客が会場を訪れた時、そこには贅沢貧乏の気配が宿っていました。

公演は夜のとばりが下りるころ、真っ暗な空間で始まりました。カチカチと響く時計の音を聞きながら、一人暮らしの女の部屋がうっすらと浮かび上がってきます。部屋には三つの木箱があり、その中には不思議な「虫」が住んでいます。帰宅した女が眠りにつこうとすると、「虫」たちは喧嘩をして邪魔をする。終盤、女は「孤独。孤独。誰にも邪魔されずに一人」と歌います。でも、部屋には「虫」が3匹もいます。贅沢貧乏の舞台は、孤独を明確にしながらも、女=私たちの中に潜む「虫」との出会いを導き、「一人ではないのでは?」という逆説的なメッセージを発していました。「虫」たちのコミカルな振る舞いにクスッと笑った夜、帰宅した観客はゆっくり眠れたのではないのでしょうか。

(文:阿部侑加)



2015年TERATOTERA参加作家プロフィール

Artist Profile

TERATOTERA SOUND FES. - 音の陽炎 -

齋藤徹

Tetsu Saitoh

1955年10月27日東京都生まれ。ダンス、舞踏、演劇、美術、映像、詩、書、邦楽、雅楽、能楽、西洋クラシック音楽、現代音楽、アストルピアソラなどタンゴ、ジャズ、即興音楽、韓国やアジアのシャーマニズムと深く関わっている。アジアとヨーロッパを繋ぐ「ユーラシアン・エコーズ」は日本・韓国・シンガポールで実施、福岡アジア美術館の開館記念での「オンパ・ヒタム」などプロデュースも行っている。ダンス審査員、上智大学非常勤講師、障害者とのワークショップなども行っている。リッチモンドやハワイでのコントラバス祭に招待されワークショップや演奏を行う。2006年アラスカ、クロスサウンド現代音楽祭で特集される。2007年個人レーベル「トラヴェシア」を創設。



Torus Vil.

世界各地の伝統芸術と繋がりを持ちながら、現代に必要な「場」作りを目指すプロジェクト。音楽やダンスを始めとする様々な領域のアーティストを繋ぎ、公演、ワークショップ、アーカイブ制作を行なう。2014年、音楽家・佐藤公哉の呼びかけによりスタート。同年8月、長野県本崎湖畔で開催される「信濃の国 原始感覚美術祭 2014 水のうたがき」に出演。同年10月「川口暮らふと2014」に出演。2015年5月、コンテンポラリー・アート・スタジオHIGURE 17-15 casにて半月間のフェスティバルを開催。「SOUND FES.」では伊東歌織(ダンス)、権頭真由(アコーディオン/歌)、佐藤公哉(ヴァイオリン/歌)、田中悠宇 Yugo Tanaka (シタール)、chi e (チェロ/歌)の5人編成で出演。http://satokimiya.blog.fc2.com



TERATOTERA 祭り2015-Sprout-

うらあやか

URAYAKA

1992年生まれ。武蔵野美術大学卒。ハレとケ、演者と観客、聖と俗など二分された事物が入り乱れる環境を愛し、自身の作品がその環境を生み出す装置になることを目標とする。文章、映像、パフォーマンス、リレーショナルアート、などによって作品を作る。



井手健介

Kensuke Ide

1984年3月生まれ 宮崎県出身。東京・吉祥寺バウスシアターのスタッフとして爆音映画祭等の運営に関わる傍ら音楽活動を始める。2012年より井手健介と母船のライブ活動を開始、不定形バンドとして様々なミュージシャンと演奏を共にする。2014年夏、バウスシアター解体後、1stアルバムのレコーディングを開始。また、井手健介と母船のほか、尾林星とのユニット「ホセ & トンチャイ」、ホセ & トンチャイのソロ「トンチャイ・K・ウィーラセタケン」としても活動。



八木美知依

Michiyo Yagi

邦楽はもちろん、前衛ジャズや現代音楽からロックやポップまで幅広く活動するハイパー(こ)奏者。故・沢井忠夫、沢井一恵に師事。NHK 邦楽技能者育成会卒業。ウェスリアン大学客員教授として渡米中、ジョン・ケーヴィン・ジョン・ゾーンらに影響を受け、以後、数々のアルバムをリリースしながら世界中の音楽フェスティバルに出演。また、各国のトップ・インプロヴィザターと共演するかたわら、J-POPアーティストのレコーディングやステージにも多数参加。英国のワールドミュージック誌「Songlines」が選んだ《世界の最も優れた演奏家 50人》の一人。現在は《八木美知依トリオ》《道場》及びソロ公演を活動の核とし、オリジナル曲中心のレパートリーを聴かせている。



東京中低域より7名のバリトンサクソ

Tokyo-Chutei-Iki

作曲家・水谷紹を中心に2000年に結成されたバリトンサクソ・アンサンブル「東京中低域」。これまでに6枚のアルバム、2枚のシングル、2枚のDVDを発表。東京をベースとしたライブ活動を行う一方、ロンドン・ジャズ・フェスティバル(2006,2008,2014)、パービカンセンター・プレイズ・フェスティバル(2010)、ノースシー・ジャズ・フェスティバル(2010,2012)などの海外フェスティバル、サマーソニック(2009)、ワールドハビネス(2010※プレイイベント)などの国内フェスティバルに出演。英国BBCにライブ出演(2006,2014)、2014年にはRadio3のIn tuneのベスト・パフォーマンスに選出。ほか、タオ・コムデギャルソン春夏パリコレクション(2008)や、明治ヨークルトTVCM(2013)の音楽を担当。また、2014年から東京国際バリトンサクソ・フェスティバルをオーガナイズ、ホストバンドとして内外のバリトンサクソ・シーンをリードする。



江藤佑一

Yuichi Eto

1989年東京都生まれ 同在住。2015年東京藝術大学美術学部彫刻科卒業。身体を通して得られる感覚を、場所や他者にあてはめ浮かび上がるものを作品にしている。主な展覧会に2015年「TWS-Emerging 2015」Tokyo Wonder Site 渋谷、2014年「アート・コミュニケーション @3331」アーツ千代田 3331、2014年「トーキョーワンダーウォール公募 2014」東京都現代美術館。



小鷹拓郎

Takuro Kotaka

1984年埼玉県生まれ。2012年までリサイクルショップ「こたか商店」を経営。近年はフィールドワークや映像制作を中心に活動中。主な企画に、地域に埋もれた性愛文化を発掘した「国立奥多摩歴史館」、墮落した修行僧達の村を追い求めて四国を一周する「ようこそ！墮落お遍路村へ」など。主な展覧会に、2015年「国際交流基金主催 Shuffling Spaces」(Gallery Seescape、タイ)、2013年「13日間のプレミアム漂流」(国立奥多摩美術館、東京)などがある。



西荻レヂデンス || 幽霊トリオをうつ:||

オル太

OLTA

1983年から1988年生まれの7名からなるアーティストコレクティブ。メンバーは井上徹、梅田豪介、川村和秀、斉藤隆文、長谷川義朗、メグ忍、Jang-Chi。多摩美術大学絵画科油画専攻出身。絵画、彫刻、パフォーマンス、映像、音楽など多数のメディアをパワフルに組み込み、多角的なアプローチによる集団的表現を展開する。巨大インスタレーション、社会との接続を試みるプロジェクトで、創造活動の根源的な力を現代へ蘇らせる。



主な個展「ヘビの渦」NADiff gallery (東京/2015)、「オルガネラ・ダイアログ」nap gallery (東京/2014)、「指彫刻」岡本太郎記念館(東京/2011)など多数。主なグループ展:TWS-NEXY@tobikan「上野のクロヒョウ」東京都美術館(東京/2015)、「内臓感覚—遠く天近生ノ声」金沢 21世紀美術館(金沢/2013)、「Distant Observation Fukushima in Berlin」クントラウム・クロイツベルク/ベタニエン(ベルリン/2014)、「第14回岡本太郎現代芸術賞展」川崎市岡本太郎美術館(川崎/2011)ほか多数。第14回岡本太郎現代芸術賞受賞。

阪中隆文

Takafumi Sakanaka

1989年生まれ、東京在住。多摩美術大学 映像演劇学科卒業。

妄想や自分を取り巻く状況を取っ掛かりに、冒険的なパフォーマンスや祝祭的なプロジェクトを行う。主な作品に渋谷川暗渠にてカストロフの予行演習を行う「They're following after the subject, and more and more keep coming.」、ギャラリーの床から外まで地中を掘り進め、出来た穴を使ってギャラリーをカメラオブスキュラ化して外の景色を投影する「anagraph」、群馬の若手向け公募展までバスに乗って川を遡る「TORYUMON 2010」がある。



瀬川祐美子

Yumiko Segawa

1989年神奈川県生まれ。東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻 卒業、現在、東京藝術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻 油画技法・材料研究分野に在学中。主な展覧会に、2015年 SEGAWA Yumiko Solo Exhibition(Raus stenkärls fabrik @Yoshio Nakajima Art Hole) / 2014年 SHORT SHORT(東京藝術大学上野校地)、第32回 明日をひらく絵画 上野の森美術館大賞展 賞候補受賞 / 2012年 ART KYOTO 2012(ホテルモントレ京都)、平成24年度 東京芸術大学美術学部絵画科油画専攻 学部3年生「安宅賞」受賞者展示(東京藝術大学 上野校地) などがある。



贅沢貧乏

ZEITAKU BINBOU

2012年より活動。主宰の山田由梨(脚本・演出/役者/デザイン)を中心に、音楽・写真・映像・制作を専門とするクリエイターが所属する劇団。演劇作品を中心に、ジャンルに捉われない作品を発表している。2014年3月より、二階建ての一軒家を丸ごと利用した演劇「家プロジェクト」の活動を開始、江東区の一軒家にて1年間で3作品を制作・上演した。



田中義樹

Yoshiki Tanaka

主に立体を制作しています。その他活動一劇団の主宰 / パフォーマンス / 漫画を書くなどいろいろしています。



玉山拓郎

Takuro Tamayama

1990年岐阜県生まれ。愛知県立芸術大学 美術学部 油画専攻、東京藝術大学大学院 美術研究科 絵画専攻 油画研究分野修了。東京都在住。個展、2015年「I WANT TO TELL YOU HOW MUCH I LOVE」switch point(東京)、2014年「the painting of the painter painting a painting」実家JIKKA(東京)、「Watering」Alainist-heonlyone(東京)、2013年「IT MAY BE THIRTY THOUSAND YEARS AGO」gallery noivoi(愛知)、グループ展、2015年「SPVI / II」ターナーギャラリー(東京)、2013年「Draw the World - 世界を描く -」アートラボあいち(愛知)、他多数。



パンク侍(パンケキ侍)

Punk Samurai

パンクなスピリットで荒々しくも優しい侍の一生を見立てるお祭りにもってこいなパンケキ集団。4年前に結成。



藤田陽介

Yosuke Fujita

広島県尾道市生まれ、香川県出身、神奈川県在住。2009年、空想を具現化した完全自作のバイオルガンを製作。その自作バイオルガンと声を軸に、ときに朗読や演劇的なアプローチなど、パフォーマンス的な要素も織り込んだ形で音楽を展開する。倍音唱法・ホーメイや、イスイットの喉交換遊び・カタジャックなど、世界中のプリミティブな歌唱法を取り入れながら、声の可能性を拡張しようという力を注いでいる。2015年8月にDVD作品「カントリー・ジェントルメン」山川冬樹×藤田陽介(監督:吉田悠)を発表。



野口竜平

Tappei Noguchi

1992年生まれ。武蔵野美術大学卒。ニューヨーク方面へヒッチハイク、タイを引っ張る、などポップな作品を発表する傍ら、超思想実践活動サークル「未知研究会」の設立、超感覚アートパフォーマンス集団パンク侍(パンケキ侍)の立ち上げ、武蔵野美術大学の学生が運営するオルタナティブスペース「しらかの荘」の発案など天才的な活動が目立つ。主なグループ展に、2014年にニパファジアパフォーマンスアート連続展(アーツ千代田3331)、2015年 拝借景アートアワード2015(拝借景)、わくわく混浴デパートメント(トキハデパート別府店)、感謝タイまつり(TERATOTERA 祭りプレイベント)、個展に、2014年 毎日どこかで行われる?ゲリラパフォーマンスアート月間展 / インド・パンガラディッシュ、2015年 タイやof無機質 人間3歩歩くのに米一粒使う(スタジオ風穴) などがある。



山本篤

Atsushi Yamamoto

1980年、東京都生まれ。多摩美術大学 絵画学科油画専攻 卒業。映像 / パフォーマンスを中心に制作 / 発表をしている。東京都在住。個展、2014年「ROAD MOVIES」Art center Ongoing、グループ展、2015年「TERATOTERA 祭り Encounter - 邂逅 -」、2014年「13日間のプレミアムな漂流」国立奥多摩美術館、「Nendo」98B at Panpasific、2013年「もののやりかた」@KCUA、他多数。



マヒトウ・ザ・ピーポー

MahiToThePeople

1989年生まれ。パンクバンドGEZANのボーカル、青葉市子とのユニットNUUAMMやBLACK SMOKERでのpeepowなど多彩な方面に活動中。うたと向きあったマヒトウ・ザ・ピーポーのソロアルバムとして二枚のアルバムを発売している。



山田由梨

Yuri Yamada

1992年1月1日生まれ。2012年貧乏旗揚げ以来、全ての贅沢貧乏の作品の脚本・演出を手がける。自身も役者として出演し、チラシデザインやグッズデザインなども担当。最近では2015年7月にベッド&メイキングス「幕場、女子高生」に出演。



和田昌宏

Masahiro Wada

1977年東京都生まれ。主な展覧会に2015年「Invisible Energy」/ ST PAUL St Gallery One and Two(オークランド/ニュージーランド)2014年「国東半島芸術祭「希望の原理」」/ 旧香々地町役場(大分)「ヨコハマトリエンナーレ2014」/ 横浜美術館(横浜)2013年「Acting Out of Nothingness:from the APT Collection」/ 大和ファンデーション(ロンドン/イギリス)、個展「RECORRIDO ARQUEOLOGICO #1(遺跡への小径 #1)」/ Art center Ongoing(東京) 他。



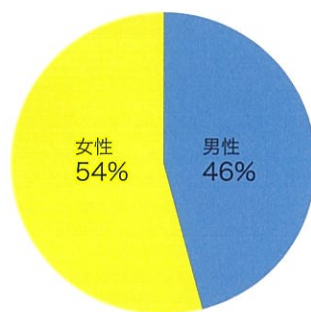
アンケート集計

Summary of Questionnaire

TERATOTERA では今後の広報活動やイベント内容の充実に役立てるべく、各イベントの来場者に任意でアンケートにご協力いただいています。2015年度は、「TERATOTERA SOUND FES.」(武蔵小金井)、「西荻レヂデンス」(西荻窪)、「TERATOTERA 祭り」(三鷹)と3つのイベントでのアンケートの集計結果を補足しつつ、今年度のイベントに参加された方の傾向を読み解き、コメントに耳を傾けてみたいと思います。

Q1 性別

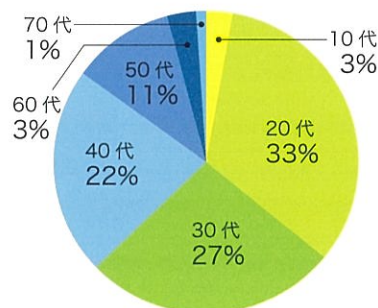
全体的に若干女性が多めとなっていますが、これは「SOUND FES.」の会場となった、江戸東京たてももの園(小金井公園内)で、夕涼みのイベントを目的に来場された女性の回答率が非常に高かったためで、「TERATOTERA 祭り」の演劇、ライブでは男性が若干多め、それ以外のアート関連のイベントでは、男女の比率はほぼ半々でした。



Q2 年代

今年度は、子供向けのイベントがなかったこともあり、10代の来場者は大幅に減少しているようにみえます。ただ、アンケートの集計結果には反映されていませんが、実際には会場を何度も訪れる近所の子供たちや親子連れの姿も多く見かけました。また、今回は、出演アーティストも20代の若手が多く、同年代の来場者をより多く呼び込んだようです。

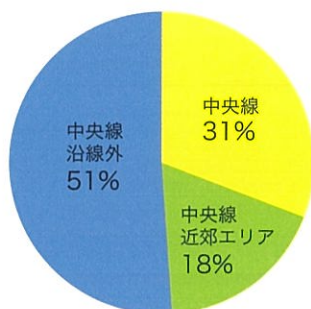
その一方でベテランの出演者は、より幅広い年代のファン層を呼び込み、50代以上の来場者の全体に占める割合も前年度に比べ若干増えました。



Q3 来場者の最寄駅

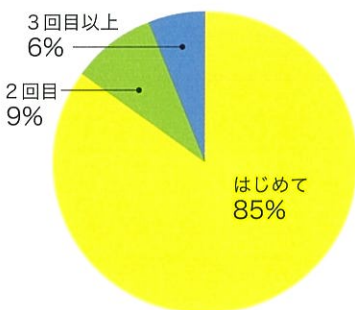
全体として、中央線沿線外の遠方からの来場者が過半数を超えました。「SOUND FES.」の会場となった江戸東京たてももの園が中央線と西武新宿線の間に位置するため、中央線近郊エリア(西武新宿線、京王線等)からの来場者が増えました。また、中央線のTERATOTERAエリア内では、西荻窪以西の三鷹～国分寺エリアからの来場者が増え、反対に東側の高円寺、阿佐ヶ谷からの来場者が大幅に減少しました。

昨年中央線の西側にイベントが集中しているため、東側のTERATOTERAエリアから都心に向かう人の流れをいかに反対方向へ呼び込むかが今後の課題です。



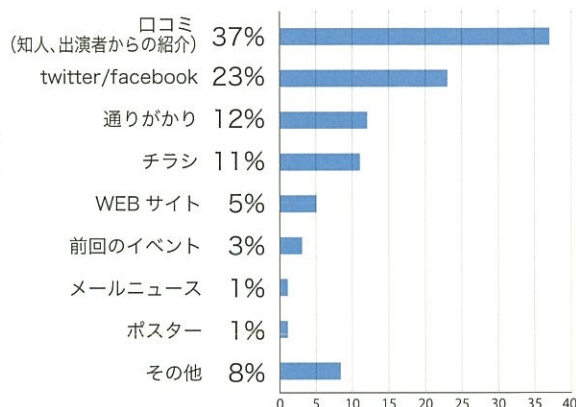
Q4 過去にTERATOTERAのイベントに参加した回数

毎年、新規の来場者が多く、リピーター率が低いようにみえます。イベント毎に招く新たな出演者をきっかけに来場される方が多く、新規来場者のアンケート回答率が、リピーターより高いことも一因と考えられます。リピーターの方にもアンケートに回答してもらえる工夫が今後の課題です。



Q5 参加のきっかけ (情報源)

知人や出演者からの紹介という口コミが圧倒的に多いですが、詳細をみると、その中には個人のソーシャルネットワークサービスを通じての情報入手も含まれているようです。また、年々twitter や Facebook をきっかけに訪れる人が増えており、SNSでの広報が徐々に認知されてきているようです。通りがかりの方がふらっと立ち寄れるのは、気軽に参加できる街プロジェクトならではの良さでもあります。また、今回は協力施設や地域の商店会のご協力もあり、チラシという紙媒体も浮上しました。やはり、会場となる場所を日常的に利用されている方に確実に届くことが紙媒体の効果の肝要なのかもしれません。



Q6 感想

各プログラムの内容については、ポジティブなご感想をたくさんいただきました。多くのもの・ことが溢れる東京でも、非日常的なものと偶然の出会いに足を止め、楽しさを感じていただけているようです。

運営面においては、いくつか厳しいご意見をいただきました。人材育成に重きを置いている TERATOTERA ですが、来ていただくお客様には運営面のことを気にせず楽しんでいただけるよう事前準備や運営体制を改善していく必要があります。

SOUND FES.

- バリトンサックスと古民家の組み合わせが面白い。お腹の底にひびく音や白熱灯でときおり反射する黄金色の金属が雅にみえ、神聖な空間にすら思えてきた。(30 代女性)
- 段取りの悪い運営がアーティストの邪魔をしては意味がないと思う。残念です。(30 代男性)
- 野外の生演奏は実に身にしみえます。(70 代女性)
- 珍しい楽器と音楽、古民家での演奏は良かったです。縁台で楽しみに始まる時間を待っていたのに、前に沢山の人が立って並び、何の為に早々に待っていたのか？進行に不満があり。(性別不明 60 代)
- チラシがわかりづらい、頑張ってる。(40-50 代男性・女性)

西荻レヂデンス

- 2つの会場を組み合わせっていてトリッキーながらゆるくリンクされて楽しかった。(40 代男性)
- 通りすがりに参加しましたが思いがけず不思議なものを見られて良かったです。(30 代男性)
- 会場が分かれていること、表現内容のコンテキストがつかめなかった。内容がよくわからなかった。(40 代男性)
- 作品内容としては興味深く、偶然性・場所の見方・作品の再現はひかれました。只、ちょっとトークがグダグダかな。(20 代男性)

TERETOTERA 祭り

- 【全体】●会場とその演出がどれもおもしろかったです。(20

代男性) ●こういう街中での取り組みをもっと継続していいほしい。(20 代男性)

【アート】●町の空間がアート空間になり宝探しをしているみたいで楽しいです。(30 代男性) ●中央線沿線は独特な雰囲気があり、閉鎖性を感じる。店舗を利用した展示は、正直入りづらい。でも、そういった閉鎖性に飛び込むことで得られるものもあると思う。オープンとクローズのバランスはもっと考えられてよいと思います。(30 代男性) ●狂気がすごい。(30 代男性) ●ライブ感があっていい。(40 代女性) ●人をわくわくさせてくれた。(20 代男性)

【演劇】●この場所でやることの意義と一方での軽やかさがよかった。来月武蔵境に引っ越してくるのでまたイベントあれば覗きにきます！(30 代男性) ●演出、テーマ、装置、上演尺、全てが身近で親しみやすく機動力がある表現だと感じました。個人的に家族(妹)の芽えない生活と重なり、刺さる思いで見ましたが、そう感じたのは自分だけじゃなさそう。(20 代女性)

【ライブ】●柔道場でライブというのがとても新鮮で面白く、好きなミュージシャンばかりだったのでうれしかったです！結構、異色の組合せだなと思うのですが、どうやって決めたのか気になります！(30 代女性) ●柔道場に初めて入ってこんなに揺れるんだと。(年代不明女性) ●中学、高校と柔道をしていたので、自分が汗を流した場所で好きな人の歌がきけてすごく良かった。(年代不明女性)



TERA English

講座期間：【初級クラス】2015年7月22日～2016年2月24日 隔週水曜日 全15回 19:30～21:30

【中級クラス】2015年7月29日～2016年3月2日 隔週水曜日 全15回 19:30～21:30

会場：アーツカウンシル東京 ROOM302（東京都千代田区外神田6-11-14 [3331 Arts Chiyoda 3F]）

受講人数：【初級】22名【中級】20名

講師：弘川有希絵、内藤貴美子

「TERA English」は、作品展示やアートプロジェクトなど、現場で必要とされる基本的かつすぐに使える英語表現を身につけるための連続講座です。アートプロデュースに興味のある人をはじめ、アーティストやアート関連の仕事に関わっている方を対象としています。作品についてのディスカッションやレジデンスプログラム（AIR）に参加することを想定した英会話などのアートにまつわる英語を、初級・中級コースに分かれて学んでいきます。

初級コースは、自己紹介、作品紹介、ネットワーキングに必要な基本的な英語を身につけたい方のためのレッスン構成となっています。文法解説・簡単なリーディング・リス

ニング・スピーキングのトレーニングを交えながら、シンプルでも確実に使える英語表現を増やしていきます。文法や語彙力の強化はもちろん、英語に対するメンタルブロックを外すことを大切にする構成となっています。

中級コースは、作品紹介、ネットワーキング、ディスカッションをするのに必要な英語を身につけたい方が対象です。リーディング・リスニングはもちろん、スピーキング・ライティングのアウトプットスキルのトレーニングも含まれたレッスンになっています。相手に自分の言いたいことを伝えるための英語の表現力を養います。

（文：弘川有希絵、内藤貴美子／講師）



内藤貴美子

San Francisco State University
でB.A.取得後、国際基督教大学
アーツ・サイエンス研究科比較
文化専攻修士号取得。アメリカ
留学で培った語学能力を活かし
て、Art Center Ongoingでスタッフとして翻訳、通訳等
をつとめた後、翻訳家として活動中。



弘川有希絵

国際教養大学卒業。アメリカ、
イギリス留学を経て、2009年より
Art Center Ongoingにてスタッ
フとしてアートの現場に関わり始
める。現在、大学生やビジネスパー
ソンに英語を教える仕事に就きながら、Ongoing AIR を
はじめとするアート関連の翻訳、通訳等をつとめる。



Dear Former and Future Participants,

"Art speaks for itself." This frequently quoted statement might be true. Some art can speak for itself, but does it mean that artists do not need to talk about their work at all? Most of contemporary art works are based on concepts, which are often deeply rooted in cultural or social values. When you have an exhibition in a different country where people do not share the same cultural background or common sense, it is very possible that your art becomes silent. In this case, your words can help the overseas audience understand or make an emotional connection to your work, and it can lead to a precious art experience for both.

I do not believe artists should explain everything, but I do believe artists should know what to say or how to tell a story about their works. I hope TERA English can provide not merely English language lessons, but also a good opportunity to explore the best way to present your art out loud.

Warmest Wishes,
Yukie Hirokawa

おわりに

11月に三鷹駅周辺で開催した「TERATOTERA 祭り」。わたしは、各会場を駆け回る中で、会期中何度もこの展覧会に足を運んでくださる来場者を見かけました。美術の知識が皆無に近い状態でボランティアとして関わり始め、いつしかその魅力に取りつかれてこの活動を続けているわたしにとっては、とても嬉しい光景でした。

わたし自身が感じる TERATOTERA の魅力は2つあります。1つは、アーティストが作品をつくる過程を間近で見られること。

毎回、展覧会の企画段階で、アーティストに展示プランを提出してもらいます。「一日中焼肉を焼こうと思う」「イメージは It's a small world です」など、予想だにしない発言の数々に、わたしは驚きを隠せません。奇想天外なそのプランを、現実のものとして作り上げていくプロセス。それを間近で見ていると、効率がいいもの、説明できるもの、売れるもの以外にも、わたしたちの生き方を豊かにしてくれるものはもっとたくさんあるのかもしれない、と感じるのです。

そしてもう1つの魅力は、TERAKKO と作品の感想を共有できることです。TERATOTERA での出展作品に限らず、他の芸術祭や展覧会、演劇、ダンスなど、どこが面白かったか、何に気づいたかを、できるだけ尋ねるようにしています。TERAKKO は年齢や職業も幅広く、本当に様々な方が活動しています。お子さんをもつ主婦として、演劇関係者として、バリバリ働くキャリアウーマンとして……。それぞれ視点が異なり、アートについてだけではなく、私生活についても新しい視点を与えてくれます。

「アートってなに？わからない。」それを、断言できる人はいないのではないのでしょうか。もしかしたら、説明しきれないものについての議論を通し、自分自身や相手の考えに向き合うことの方が大切なのかもしれません。

わたしたちが続けている TERATOTERA の活動が、会場を訪れた方にとって、分からないものを排除してしまう前に、自身との違いに耳を傾けるきっかけになったとしたら、これほど嬉しいことはありません。

今年度新たに、また以前より引き続きご協力いただいている方々に、心より感謝し、また新たな驚きとの出会いに期待して、これからも活動を続けていけたらと思います。

事務局長
高村瑞世

プロジェクトスタッフ

Project Staff

ディレクター	小川希
事務局長	高村瑞世
事務局スタッフ	東晶子
広報チーム	※ 出演者情報の収集整理、広報物の配布リスト・スケジュール管理、プレスリリース配信、 地域連携方法の考察、周辺施設との協働イベントの企画・運営、チラシ配布リストの管理 遠山尚江（リーダー）、山本晃由美、半田将仁、都賀田一馬、森聡史、相川正太郎、中村孝士、細沼雅子
記録チーム	※ 各イベントの映像・写真撮影、トークイベントの文字起こし、記録冊子の掲載情報管理 千葉佐奈子（リーダー）、西岡一正（監修）、杉本亜矢子、飯田光尚、横山智奈美、 後藤響子、志賀祥子、山上祐介、中沢恵子、徳久朋子
西荻レヂデンスチーム	※ 作家との作品プラン調整、作品制作補助、当日運営・管理 高村瑞世（リーダー）、吉田絵美（リーダー）、阿部侑加、神山綾子、小玉明子、 鈴木賀貴、根本麻衣子、町田紗記、柳本紀子
SOUND FES. チーム	※ 出演者との調整、当日運営・管理 加藤裕士（リーダー）、佐久間孝彰、高島佐知子、畑中さおり、兵藤あき、柳本紀子、手塚典子
TERATOTERA 祭り	阿部満世、井戸勇二、植田かほる、岡田拓、北川麻衣子、佐藤琴未、佐藤佳奈、数住優香里、 棚池幸治、谷内蒔冬、橋本春佳、宮川かな、米窪由樹子と、上記全員で運営。
TERA English 講師	※ 講座のカリキュラム作成、運営 内藤貴美子、弘川有希絵
アーツカウンシル東京	森司（東京アートポイント計画ディレクター） 三田真由美（東京アートポイント計画プログラムオフィサー） 嘉原妙（東京アートポイント計画プログラムオフィサー）
主催	東京都、アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）、一般社団法人Ongoing
後援	三鷹市、武蔵野市
協力	株式会社リライト、旅の本屋のまど、Roof、江戸東京たてもの園、旅館西郊、おながくのじかん、（有）三協住宅社、 学校法人 東海大学 望星学塾、独立行政法人都市再生機構、永谷商事株式会社、株式会社 まちづくり三鷹、 協同組合 三鷹中央通り商店会、レストラン喫茶 上床、株式会社細田工務店、株式会社 ビデオインフォメーションセンター、 ビリヤード山崎

TERATOTERA2015 DOCUMENT

編集：西岡一正、高村瑞世、千葉佐奈子

監修：小川希

デザイン：トール至美

翻訳：弘川有希絵

写真：Ujin Matsuo, Kengo Kawatsura, Hako Hosokawa, TERA KKO

発行日：2016 年 3 月 22 日

発行：アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）

〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-1-28 九段ファーストプレイス 8 階

Tel: 03-6256-8435 / Fax: 03-6256-8829

問合せ

一般社団法人 Ongoing

〒180-0002 東京都武蔵野市吉祥寺東町 1-8-7

Tel/Fax: 0422-26-8454

Email: info@teratotera.jp

http://teratotera.jp

東京アートポイント計画は、地域・市民が参画するアートプロジェクトを通じて、東京の多様な魅力を創造・発信することを目指し、東京都とアーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）が展開している事業です。まちなかにある様々な地域資源を結ぶアートプロジェクトを、アーティストと市民が協働して実施・展開することで、継続的な活動を可能にするプラットフォームを形成し、地域社会の担い手となる NPO を育成します。

<https://www.artscouncil-tokyo.jp/>

TERATOTERA
DOCUMENT
2015